

鹿兒島港修築工事

地勢

本港は鹿兒島灣（一名錦江灣）の西北に位し、磯と天保山の間介在し、西方一帯は近く鹿兒島市街を隔て、蜿蜒たる丘陵を負ひ、東方は海上里余を距て、櫻島に對し相擁して自然の障壁をなし、風波に對し大体安全の地形を占むるも、唯東南及東北の展開方面より襲來する風浪は、時に強烈を極め本港に對する一大脅威なりとす。

沿革

本港は前面に屋久島岸岐、辨天臺場、一丁臺場、新波止及三五郎波止を築造包圍し内港を形成する港にして、是等諸堤は其時期を異にすと雖ども何れも舊藩政時代の造築に係り、其前面海底の傾斜頗る急なるより推測するに、施工上幾多の困難を排し成功せるものにして、其當時に於ては船舶の碇繋及避難に多大の便を興へたりしものたるや明なりとす。爾來歲月の經過と共に港内漸く埋没し、舢船魚船の如き小船すら出入に困難を覺ゆるに至りしを以て、明治二十五年より同二十七年に亘り浚渫の工を起し、干潮面以下三尺の水深を得たりしと雖ども土砂の堆積速かにして、一兩年を出ですして舊形に復するの不幸を見るに及び、本港修築事業は縣下の輿論となり、大規模に港内を浚渫するの外荷役設備を完成するの議起り、調査機關を設けて審議を重ね其成案に基き工費總額百十萬余圓（内國庫補助二十四萬四千余圓）を以て明治三十三年度に起工し、幾多の變遷を経て同三十八年末之を完成せり。工事

の概要は市街地を掘鑿して約八千五百坪の水面積を擴め、一面水面積約四萬三千坪を埋築して階段石垣を築造し物揚場を設け又内港に於ける水深を干潮面以下七尺乃至十八尺に浚渫して有効水面積三萬六千余坪を得たる外一丁台場と新波止を連結し、浮棧橋、航路標識用燈竿及浮標の設置等にして、尙物揚場の整理上屋の建築等陸上の設備を併せ施したるを以て船舶の碇繋、貨物の集散に多大の便宜を興へ、尙農商務省に於て明治四十年より同四十五年に亘り、總工費二十七萬二千餘圓を以て停車場前面に於ける三五郎波止に接続して、防波堤長百間を築造し其内部を十尺五寸に浚渫して船入場に供し、其東北方及西北方面積約貳萬參千坪を埋築及買上げ之を貯木場に供したるを以て稍々面目を新にせりと雖も、由來本港は阪神地方及沖繩群島、鹿兒島諸島嶼間に於ける交通を主とする重要港灣にして、輒近内外通商貿易の發達に伴ひ、出入船舶の増加と共に船型の増大を來し、現に大阪商船會社は沖繩航路に三千噸級の船舶を配備し南洋航路の全級船亦屢寄港するも港内狹隘にして且水深淺く是等大船を收容する設備絶無なるのみならず、千五百噸以下の小型汽船と雖とも之れか收容に多大の不便と不安とを忍はざるへからす。殊に沖繩、大島諸島の開發と、本港背面地域に於ける鐵路の延長とは相俟らて本港將來の貿易額の激增を來すべく、現状にては到底本港の發展に適應し、其の使命を完ふする能はざるべきを以て、先以て港内の擴張を主とし本工事を施行するに到れるものにして、海陸連絡設備は一時浮棧橋を設けて之に充て、追て岸壁工事を追加施行する豫定なり。

計畫の大要

本工事は鹿兒島縣の事業を内務大臣に於て直接施行するものにして、總工費三百萬圓(内國庫補助百五十萬圓)を以て大正十二年度より同十八年度に至る七ヶ年の繼續事業として施行の計畫なりしも、其後事業繰延の爲め竣功期を昭和七年度迄延長することとなり。計畫の大要は左記の如し

(イ) 防波堤 北防波堤延長二百六十米を一丁台場先端より南東に、又南防波堤長百十米を洲崎埋立地より北東に向け新設し、港口百米を隔て、兩防波堤を相對せしめ、以て波浪を防ぎ併せて甲突川漂砂の侵入に備ふるものとす。

北港口は其幅員廣きに過ぎ、北東の激浪に際し往々港内船舶及護岸に損害を興ふるを以て、新波止を北に三十米延長し幅員を七十米に縮少するものとす。

(ロ) 掘鑿及浚渫 港内中央部に介在する辨天臺場、同渡道、屋久島岸岐を除却し、洲崎埋立地の北半部を掘鑿し以て港内水面積を約二十九萬平米に擴張し、生産町より潮見町に至る海面約九萬平米を干潮面以下七、五米に浚渫し參千噸級船舶の碇泊に便せしめ、其南部約三萬平米を干潮面以下三米に浚渫し發動汽船及帆船の碇繋所とす。

(ハ) 棧橋 生産町一號棧橋を築町に移轉し、固定棧橋及浮函一個を増設し參千噸級船舶を繋留せしめ、又築町棧橋を生産町一號棧橋跡に渡道二號棧橋を住吉町に移轉し、夫々千噸級船舶船灣内交通汽船の繋留に供せしむるものとす。

工事の概況 本工事は大正十二年度創業と共に直に、重要土工器機たる搔揚式浚渫機（價格約十六萬五千圓）を外國に注文したる外、事務所及倉庫の建設並に工用自動艇を建造し、翌年度前記浚渫機到着したるも、事業繰延の爲め年度割額減少したるを以て之を据付くへき船体を建造する餘祐なく、大正十四年度に於て漸く之が建造及其据付を完成し、着工し得る運ひに至りたるも、偶々修築計畫變更（當初は港内浚渫と共に辨天台場の一部を利用し附近を埋立て岸壁を築造する計畫なりしを前記計畫の如く變更）の議起り。大正十五年六月漸く決定せしを以て、直に辨天台場の除却に着手し目下其半ばを除却し終り、一方右除却土石中の石材を利用し、北防波堤の捨石に投棄せり。

昭和二年一月末現在に於ける功程は左表の如し。

種別	設計高	竣工高	竣工歩合
掘鑿	四八〇、〇〇〇 ^{立米}	七一、一七八 ^{立米}	〇、一五 ^厘
費目	豫算高	支出高	
防波堤及護岸費	七九七、〇〇〇 ^円	三一四 ^円	
棧橋費	六六、〇〇〇		
浚渫費	七六五、〇〇〇	一七、六六六	〇、〇二

豫算に對する支出歩合

又同月末迄に支出したる工費は左表の如し。

船舶及機械費	九三八、〇〇〇	三三三、七八五	〇、三五
雜費其他諸費	二三九、六〇〇	三九、〇九六	〇、一六
事務費	一九四、四〇〇	二七、四八二	〇、一四
計	三、〇〇〇、〇〇〇	四〇八、三四三	〇、一四

次に辨天台場除却工事就業の搔揚式浚渫船錦江號（貳百坪堀）成績及同工事費の内譯は左表の如し。

種別	總數	一ヶ月平均
總日數	153	31
就業日數	126	25
總日數 = 對スル	0.82	0.81
就業日數 = 對スル	0.82	0.81
總土石量	65.184	13.037
總日數 = 對スル	426	
就業日數 = 對スル	517	
勞力費	4,039.72	807.94
石數量	377	75
炭金額	4,026.30	805.26
油類其他	405.88	81.18
費計	4,432.18	886.44
合計	8,471.90	1,694.38

種別	總額	一ヶ月平均額	百立米當
浚渫轉船費	4,039.72	807.94	6.20
材料費	4,432.18	886.44	6.80
計	8,471.90	1,694.38	13.00
曳船運轉費	4,146.98	829.40	6.36
土運船運轉費	1,498.92	299.78	2.30
雜費	906.99	181.40	1.39
合計	15,024.79	3,004.96	23.05

昭和二年四月一日印刷
昭和二年四月十日發行

內務省下關土木出張所

下關市東南部町百十五番地

印刷所 泉 菊 工 場

下關市西南部町七十八番地

印刷人 泉 菊 太 郎